

国立市社会福祉協議会主催 第3回・居場所サロンシンポジウム 「アフターコロナを見据えた居場所のこれからを考える」

2021年12月4日(土)

くにたち福祉会館(3階・中会議室)

登壇時間/約13分



気づけば国立市に来てほぼ四半世紀、人生で一番長く暮らす街になりました。4年前に荷物を置く為に東にある家の近くにアパートを一室借りて、それが押入に収まったので空いた六畳間を何かに使えないかと考えました。最初は友人らと鍋会をやったり、今でも読書会などしていますが、コロナ禍で動けず、社会福祉協議会の「まごころサロン」のことを知って登録。ようやく活動を開始したばかりです。

まずはボードゲームで交流会をしようと企画しました。初回は先月11月13日の土曜日、SNSの告知を観て申し込んでくれた人や、当日予約してくれた人など友人知人も参加して初対面の8名で和気藹々と楽しみました。これから、毎月一回土曜日に開催していく予定です。次回は今月11日ですすでに予約で満席、年明けは1月8日のどちらも第二土曜日です。



国立市のコミュニティー施設の減免団体に登録できましたので、近くの東福祉館の広い集会室を借りました。そこでかつて国立市との縁となった公民館で毎年開かれていた「イケダ自然体操」という講座のような、自分の体を感じて人と繋がる体操(運動?)をシェアする場として「気づきごっこ」ということを始めたいと企画しました。初回を今月15日の水曜日夜にやります。ぜひご参加ください。



子どもの頃は内向的で、家の外では一言も口を聞かないような子どもでした。虐めもあり小学生で自殺まで考えたこともあります(でもこうして生きてます)。

上京して10代の終わりのある日、自分から動き出そうと決めて、20代は演劇やダンスをやったり、仲間を集めて舞台や祭りに出たり、障がい者相手のボランティア活動やイベントを企画したり他人との関わりに飛び込んでいきました。でもそのうちに若いから色々(恋愛とか)面倒なこともあって人間関係に疲れて、また一人に戻って創作活動を始めました。



当時暮らしていた中野区の公共施設内にあったギャラリーで独りで始めた空間創作（インスタレーション？）で色々な出会いがありました。これは昨年の様子ですが、ダンサーが踊ったり、ミュージシャンが歌ったり、子どもが転がったりしています。最初の頃は近所の小学校に通う子どもたちが遊びにやってきました。子どもは苦手で、若い頃はどう扱っていいのか困惑していましたが、毎年開催中に毎日のように来て仲良くなり、四半世紀も毎年続けているうちに、その子どもたちが成長して結婚式にまで呼ばれたり、去年は生まれた二世を連れて来てくれたりしました。

本業はフリーランスのデザイナーでパソコンに向かってばかりなので、仕事が暇になった機会に保育士の妻の勧めもあって人と関わる訪問介護ヘルパーを始め、細々と11年ほど続けました。高齢者だけでなく、働き盛りで障がいを持った方や、知的障がいなどコミュニケーションの難しい方と接する内に何か言葉以上の繋がりを模索したくなりました。

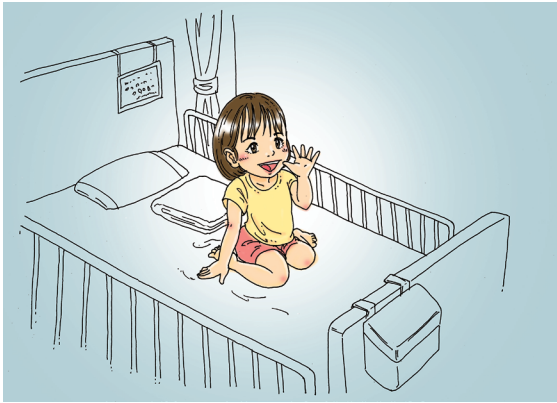
そのタイミングで出会ったのが「パッチアダムス」という映画でした。パッチは実在の人物で、精神病院に入院中に人を癒すことに目覚めて医師になり、災害や紛争、貧困国をクラウンとして巡る活動をしています。映画の中でパッチが病棟でおどけて入院している無表情の子どもたちを笑わせるシーンに魅了されました。日本でもホスピタルクラウンという病院に訪問するピエロの活動があることを知ってネットで検索し、ケアリングクラウン（癒しの道化師）の講座を見つけ受講しました。



そこで知り合った仲間と病院や福祉施設、福祉祭りなどのグリーティング（つまり賑やかし）に行きました。クラウンは場を転換する存在、そしてインナーチャイルド（内なる子ども）を共鳴させます。素敵な出会いもたくさんありました。

そんなある日「吉田さんはクラウンじゃなくてもいいんじゃない？」と友人に言われて、今はコロナ禍で休止中ですが近く（府中）の都立小児総合医療センターの病棟で入院する子どもたちの遊び相手ボランティアを始めて8年ほどやっています。私が入ったのは外科病棟ですが、いつしか映画の中のパッチみたいにベッドの上の子どもたちが大声で笑ってくれていました。子どもたちと接するとこっちが元気を貰えます。そして遊んで仲良くなると、家族でも医療従事者でも学校の先生でもない私に、子どもたちがポロリと学校や家族や友だちのことを語り始めるんです。生活に関わりのない自分にも役割があるような気がしました。

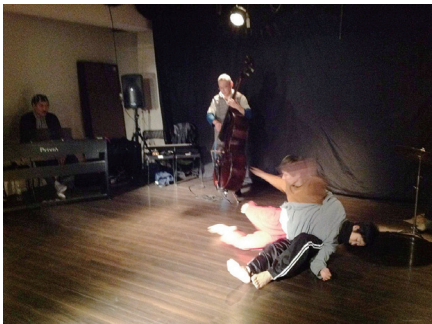




病棟で出会ったYちゃんの話をしてします。小さな彼女との出会いもここに至るきっかけになりました。Yちゃんはエクボの可愛い2歳の女の子です。他の子は親が毎日来たり、おもちゃに囲まれていましたが、Yちゃんはいつも何もないガラとしたベッドの上でポツンとしていました。看護師さんや保育士さん、清掃の方などが「Yちゃんはバイバイが上手なのよー」とよく口にしました。入院してから両親も誰もお見舞いに来ません。その日も、いつもと変わらずぽつんとしているYちゃんと目が合うと「あ！」とすぐに気づいて「イス！」と指差して笑いました。Yちゃんに関わるのは3回目、「あ！」とエプロンのポケットに入っていた相棒のおもちゃをおねだり。いつものようにYちゃんと二人であれこれ遊びを見つけて遊ぶと、大喜びで病棟のフロア中に響く録音したいぐらい素敵な笑い声を挙げてくれました。「何やって遊んだら、こんな楽しそうに笑うの!？」と不思議そうに看護師さんたちが集まってきて部屋を覗きます。何も特別なことなんてしてません。ただ、一緒にいる時間を全力で寄り添うこと。人に甘えることを知らないYちゃんが「抱っこして、抱っこして!」とこの日は両手を伸ばしてきました。



勝手に連れ出せないなので、ベッドの上で何度も何度もぎゅっと抱きしめました。週に一回2時間だけのボランティア活動なので、帰る時間が来て別れる時、いつも「バイバイ」と感情を切っていたYちゃんが泣き出して我が儘を口にしました。「バイバイしない! バイバイしないのっ!」と。私は「ごめんね、ごめんね。またきつと来るからね」と泣いているYちゃんをなだめると、Yちゃんは目を真っ赤にして精一杯の我慢で笑ってエクボを見せてくれました。



私はYちゃんをそのまま抱っこして連れ帰りたい気持ちでした。でも私は私の僅かな時間を彼女と過ごすことしか出来ません。Yちゃんみたいに本当に寂しい人、辛い人は助けを求めてきません。誰かに期待しない、辛いと感じない、辛いと気付いたら生きていけなくなるから…。感情を閉じ込めていたYちゃんに、ほんの気まぐれみたいな温もりを与えたのは酷なことだったのかも知れません。Yちゃんと会ったのはその日が最後になりました。

無力な私の中には、出会って来たたくさんの方が住んでいます。

10年前くらいに始めたコンタクトインプロビゼーション（即興ダンス）は言葉は交わさなくても一緒に踊れば初対面の人ともすぐに打ち解ける世界です。子どもとも体ごと戯れ合うとすぐに仲良くなれます。うまくいかないこともあるけど人は繋がれる。ほんのひとときでも楽しい時間を共に過ごして、本音を語り合えるようなそんな場所が出来ないか、小さな事でもいいから何か自分に出来ることのあるのでは？と居場所づくりを始めました。

居場所とは単なる場所ではありません。想いを置く心の拠り所だと思っています。「まんまのま」という名前は、「まんま」ご飯、「まま」母親、「そのまんま」ありのままという意味でつけました。来る人が気兼ねなくありのままの自分で居られる場所が創れたらと思っています。

そして何より、自分が楽しむことを大切に。





★これから居場所づくりを始める人へ

あれこれ考えていると不安要素ばかり増えてきて動けなくなる。だからまずは始めること、失敗も込みで動き出すことだと思います。小児病院ボランティアをしている時にこんなことがありました。病室で子どもたちと騒いでいて看護師さんが飛んできて注意された後に、私がしょぼりしていたら入院していたベッドの上の小学生の男の子がこう言いました。

「失敗したっていいじゃないか。また今日から、新しく生きればいい」

★シンポジウム後に寄せられた感想

吉田さんのお話しされた言葉で、心に響いたことがたくさんありました。

吉田さんが国立市に住んでくれてよかった。

そして、まんまのまをやろうと思ってくださって本当によかった。

これからも、たくさんの楽しいことで今までつながっていなかった人たちともつながっていけるといいなあと思いました。

吉田さんの思いや伝えたいことは、ちゃんと会場の皆さんに届いていたのではないかと思います。(K.S)

すてきなお話をありがとうございました。

病気だった女の子のお話も深く残りました。

お話の子どもたちとの心の交流、感動的でした。

(M.T)

吉田さんがここまで行きついた流れにぐいぐい引き込まれました。

公民館で「イケダ体操」ずっとやってきましたよね、私も行ってみればよかったな…。(M.K)

明るく前向きなムードで楽しかったですね。

素敵なお報告をありがとうございました。

何故か懐かしいゆるムード漂うまんまのま素敵です！パッチアダムスはもちろん、子どもたちと戯れてる吉田さんもイイですね！

Yちゃんの話はぐっときました。(Y.S)

吉田さんのお話はうるっとながら拝聴しておりました。また、ケアリングクラウン、パッチアダムスにもかなり興味津々です。(T.N)

Yちゃんの話、ほんとうに心に響きました。

ヤングケアラーの問題も同じ、どうかか打開策を考えていきたいです。また繋がりましょう。(S.K)